



2024年2月

富士山クラブ通信

Vol.74

発行：2024（令和6）年2月10日 認定特定非営利活動法人富士山クラブ

- ぐるり富士山風景街道一周清掃 2
- 山梨エリアでの清掃ボランティア 3
- 外来植物駆除活動～生物多様性に向けて 4
- 世界の学生が参加～環境教育活動 5
- 富士登山シーズン事業 6
- 静岡での清掃活動ボランティア、森づくり 7
- 休眠預金活用事業 8
- 会員レポート 9
- 富士山の日フォーラム 10
- 事務局からのお知らせ 11



もりの学校での寝袋発送準備にかけつけた皆様と
(認定NPO法人ピーク・エイド提供)

- <https://www.fujisan.or.jp>
- <https://twitter.com/fujisanclub>
- <https://www.facebook.com/Fujisanclub>
- <https://www.instagram.com/fujisanclub/>



Website

一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます

元日の夕方に発生しました、能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当クラブは、ともに「もりの学校」を拠点にしている、認定NPO法人ピーク・エイド（代表 野口健）が行う被災地支援活動について、ボランティアの皆様とともに体育館にて支援物資発送準備のお手伝いに協力しています。野口理事長自身が極寒の被災地に何度も足を運び、被災された方々に全国から寄せられたあたたかい寝袋やマット、ソーラーランタンなど支援物資を届け、被災者の声を聴き寄り添う活動を続けています。

お手伝いを続ける中で、富士山地域においていざという時の連携体制の構築や自分たちの役割の把握、最新情報の受信と発信の重要性を考えるなど、野口理事長の行動から多くを学んでいます。野口理事長が新聞コラム（2024年1月18日付産経新聞「直球&曲球」右記QRに記事）で記していましたが、「災害は『明日は我が身』」なのだということを忘れてはなりません。



今年の干支である「甲辰」は、「成功という芽が成長し、姿を整えていく」という意味があると言われております。当クラブとしても、被災地が元の姿に戻りますよう、支援活動に引き続き協力してまいります。被災地のみなさまの安全確保、そして一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

理事・事務局一同

ぐるり富士山風景街道一周清掃 2023

2023年10月14日、本年も企業・市民・自治体・官公庁等による実行団体ネットワークにより「ぐるり富士山風景街道一周清掃」を行いました。9回目となる今回も富士山クラブが実行委員会として、実行委員長として野口健理事長の参加は叶いませんでしたが、合計64名の参加により、国道138号富士吉田・河口湖IC付近の清掃活動を行いました。また今回は静岡県において道の駅朝霧高原周辺にて、山梨・静岡同日の一斉開催となりました。

当日はマスコミによるごみ問題の番組取材も行われ、意識の高まりを感じました。また、来年度は10回の節目となるため改めて開催へ向けて、通常清掃活動と併せながら取り組みを続けたいと思っています。



清掃活動に併せまして本年も引き続き「ごみゼロAIエコパトロール」ごみ調査を行っています。環境保全活動でのAIの活用を目指す注目度の高い事業として、ごみの状況について調査・パトロールを行い、問題提起を継続しています。活動の様子や、取材などについては専用サイトにてお知らせしています。

<https://fujisan.jp/gomiAI/>



【これらの活動は 「関東地域づくり協会」 助成金 を活用して実施しています】

山梨エリアでの清掃ボランティア

【山梨県クリーンアップ事業】

鳴沢村産業廃棄物大規模不法投棄現場での作業について、本年もたくさんの企業・団体の方々にご協力いただき、廃棄物の撤去作業を続けています。



セブン&アイグループ労働組合連合会様



サムスンC&Tジャパン株式会社様

【清掃活動】

若い世代の活躍により、国道139号周辺青木ヶ原樹海の森の中まで清掃活動が実施できました。



キャノンMJ株式会社の新入職員の皆さま



東洋大学の大学生の皆さま

【富士山のごみの状況について】

今年も環境問題のトピックとして、「富士山のごみ問題」について、富士山登山シーズンに合わせいろいろな番組や記事などで目にした方も多いかと思います。

富士山のごみ問題は、「登山シーズン」と「富士山麓」についてそれぞれ別の問題として捉えることが必要な環境問題です。そして、その登山シーズンの山岳地域のごみ問題と、富士山麓の不法投棄ごみ問題は、決して「富士山」には限らない、どこの山・どこの山麓、またどこの観光地でもありふれた環境問題となっています。

どこにでもあるごみ問題ですが、環境保全・世界遺産のシンボル「富士山」から、情報の発信や問題提起の中心となれるような活動を続けていくことの必要性を感じています。

今後もみなさまのご協力のもとに継続、そして新たな発展ができることを願っております。

外来植物駆除活動（特定外来種、国内外来種）

【河口湖アレチウリ一掃作戦】地元そして会員の皆さんと、春夏は北岸、夏秋は南岸へと活動を進めました。今期は試験的にスマホで生育地点の位置情報を記録しながら駆除を実施。今後は駆除重量に加えエリアごとの生育密度や面積から、駆除活動の効果や成果を把握していきたいと考えています。◆山梨県外来生物防除事業費補助金◆河口湖アレチウリ一掃作戦実行委員会活動



【スバルライン五合目外来種防除活動】五合目に生育が確認されているセイヨウタンポポなどの国内外来種6種について、富士山山体の貴重な生態系への影響を及ぼさないよう、今期は2回の防除活動を行いました。◆富士急行協賛◆山梨県富士山科学研究所受託◆西松建設生物多様性保全活動



【国道469号沿線オオキンケイギク駆除活動】富士宮口登山道の近く、富士市と富士宮市を繋ぐ国道沿いを黄色く縁取るオオキンケイギクは、9月に1回駆除を行うことができました。道具を使って土を掘り根ごと抜き取って45L袋×75袋分も回収。できれば次期は活動数を増やし、生育範囲を縮小させていきたいと考えています。◆明治グループ労働組合連合会活動



環境教育活動

日本、シンガポール、中国の大学生8人が参加した富士山研修プログラム

早稲田大学国際学生寮WISH・SIプログラムによる富士山研修を、富士山クラブが企画・コーディネートし、昨年（2023年）8月1日から5日間の日程で実施しました。富士山でのグループワークを通じて、主体性や課題解決力能力を磨くこのプログラムでは、環境省富士五湖管理官や山梨県富士山科学研究所研究者ら専門家の講義を受け、皆でディスカッション、富士吉田1000年の歴史を持つ織物産業の工場見学と織られた生地を使って御朱印帳をつくり、富士登山や樹海ウォークなどのフィールド体験など、富士山の歴史、文化、産業、自然、環境について学び、考えました。

参加した中国人留学生は、「環境問題に関心があり、富士山の制度や課題をもっと学びたい」と話し、富士山クラブでインターンを希望する学生もいました。2021年夏のインドネシア留学生に続き、来夏に富士山でインターンとして活躍しているかも！と今から楽しみです。

会員と一緒に、富士川クリーンアップボランティア活動

最終日には、富士山クラブ会員と一緒に、富士川のクリーンアップ活動を行いました。富士川をラフティングで約2km下りながら、ところどころでボートを止め、陸からアプローチしにくい河川敷でごみ拾い、途中ボートから川に飛び込んで、ぶかぶか浮かんだり、急流でボートが回転したりと、川遊びも楽しみながら、あっという間の3時間でした。

ペットボトルやプラスチック容器など可燃ごみ60kg、自転車のタイヤやビン・缶などの不燃ごみ90kgを回収しました。弁当容器、台所用品のプラスチック容器なども多く、「川のごみの8割が陸由来」といわれるのを実感。

リバーガイドの大窪毅さん（本流堂代表）から、川の環境、水利権と水量の関係がもたらす問題などのお話を聞き、地元の経済、環境、生活などの地域課題を知ることができました。



アジア太平洋カンファレンスで研究発表(2023年12月3日)

立命館アジア太平洋研究センターが主催する国際会議「アジア・太平洋カンファレンス」に出席、分科会「富士山世界遺産登録後10年間の振り返りーこれまでと今後の展望ー」で、コロナ前後の外国人増加に伴う、オーバーツーリズムやごみ問題について、当クラブが取り組んだ成果検証とこれからの課題を研究発表しました。



山本清龍東京大学准教授、中島泰JTBF上席主任研究員、ケルヴィアント・ジョンヨブ トロAPU博士課程大学院生ら6人で発表

富士登山シーズン事業 2023

2023年の富士登山シーズンも行政との協働で開山期のごみ問題への取り組みを実施しました。静岡県からの委託事業として行う「富士山のごみ持ち帰りマナー向上キャンペーン」では、静岡県内の各五合目および交通要所の水ヶ塚公園にブースを設置し、ごみ持ち帰りの呼びかけとごみ袋の配布を行いました。シャトルバス内で野口理事長出演の啓発VTRが放映されるなど、新たな試みも実施しました。富士宮市からの委託事業として行う「富士宮口登山道状況調査」では、五合目から山頂に至るごみをはじめとした状況調査を計10回行いました。

登山者数をはじめとした今期の結果をみると、富士登山の状況はコロナ禍から従来にほぼ戻ったように思います。現場では、日本一の標高を誇る富士山に臨むにはあまりに軽装備な登山者が未だに多いこと、年々増加する外国人登山者の動向を背景に新たな危惧を感じるなど、富士山ならではのとも言えるべき問題点も確認しました。

各事業ともに開始当初から携わらせていただいている経験と成果を活かし、引き続き状況改善の取り組みに寄与出来ればと思います。



マナー向上キャンペーン：富士宮口には野口理事長にも足を運んでいただきました。



登山道調査：大量の不法投棄や大きなごみの確認はありませんが、飲食包装や破損した登山用具など小さなごみが散見される状況です。

静岡エリアでの清掃ボランティア、森づくり

【清掃ボランティア】

長年ご支援をいただく企業・学校団体をはじめとしたみなさんと、年間を通じ活動を実施することが出来ました。田子の浦を中心に行う海岸清掃、悪化傾向にあり重要かつ問題視している幹線道路沿いのポイ捨てが主な対象となる山麓での活動、大規模不法投棄現場での回収と、時代の変化を背景に内容も多岐に渡る現状ですが、参加・協力いただくみなさんのご理解のもと、実践活動を継続しています。



【森づくり：コスモエコカード基金助成】

里山フィールド粟倉地区での活動は3年目を迎え、環境教育プログラム実践の場としての展開も進んでいます。北山地区でも2021年に締結した「しずおか未来の森サポーター」協定のもと、静岡県、地元企業とともに進める官民協働の森づくりを行っています。奥山フィールド西白塚の活動では、富士山の自然環境を体感できる立地を活かしたエコツアーを、企業の社員研修として、また市民の方を対象に富士宮市との協働で行いました。



休眠預金活用事業

実行団体の活動動画公開中

甲信地域休眠預金等活用コンソーシアムを組み、休眠預金等活用事業の2020年度資金分配団体として、21年度から3年間、助成・伴走支援をしている甲信地域の市民団体、NPO 法人河原部社、認定NPO 法人スペースふう、NPO 法人bond place、八ヶ岳山麓食のまちづくりラボコンソーシアム、(社) 信州上田里山文化推進協会の計5団体の活動を動画で紹介中です。また、2023年9月17日にBS-TBS 番組「長野・山梨休眠預金活用事業はじまりとつながりとひろがり」とでも、5団体まとめて活動の様子が放送されました。



理事長・理事が実行団体の活動を視察

野口健理事長、石坂、出江、神田、国吉、佐藤、七井の各理事が、山梨県内の河原部社(写真上)スペースふう(同中)、bond place(同下)を訪問、活動視察と担当スタッフとの懇談を行いました。山梨県の地域課題解決のため、当クラブを通じて助成している活動について、その意義と成果を改めて知るよい機会となりました。



会員レポートその1 「日本橋から富士山頂へ」

日本橋から富士山頂へ 120kmを歩く

会員 毛利 昭

富士山クラブもなかなか粋な企画をやるものである。それが今回紹介する「お江戸日本橋」から旧甲州街道を大月宿まで歩き、大月からは「富士道(みち)」を歩いて富士吉田市の「北口本宮富士浅間神社」で参拝し、そこから富士山に取り付き山頂アタックを敢行するという企画であります。但し、この行程を一気に歩き通す訳ではなく、約120kmと言われる行程を、数日に分けて歩くものであります。

齢80の記念にとこの企画に参加し、2023年8月25日に富士山頂に立つことが出来ました。顧みれば、第一回は2021年の10月でした。日本橋を発って高井戸宿へ、二回目が高井戸宿から府中宿へ、三回目が府中宿から高尾宿へ、四回目が高尾宿から小仏峠を越えて相模湖までの予定でしたが、この日は高尾山の「ダイヤモンド富士」が見える日である



との事で、予定を変更して高尾山頂へ向かいました。この辺の融通の利くところがクラブの良いところでもあります。

五回目ですが、この間、コロナの蔓延に行程を阻まれ、行事が再開できずに焦りもありましたが、2023年の夏からの再開となりました。従って五回目は小仏峠に登り直し、ここから相模湖に向かい藤野宿までとなりました。六回目が藤野宿から鳥沢宿へ、七回目が鳥沢宿から猿橋宿に至り、大月宿の追分で富士道に入りました。八回目が都留宿から「北口本宮富士浅間神社」へ参拝しました。いよいよ富士の入り口と言う所です。九回目が神社境内から富士の五合目までの登山道で、富士のすそ野を歩きます。神社の鳥居をくぐり、樹林帯を「中の茶屋」を過ぎ「馬返し」ですが、ここを過ぎると登山道は傾斜を増します。さすがに富士山、簡単に登らせてはくれません。

十回目が富士山頂アタックです。朝一番でスバルライン五合目に至り、出発は午前6時で同地点への帰着が午後5時半でした。登頂と下降で11時間30

分、ほぼ半日でした。行程の最後になるアタック隊のメンバーは女性が4名、男性は私の他に会員で山伏の土屋氏に同行してもらいました。白い山伏装束とほら貝を鳴らす土屋氏は、行きかう外国人の目を奪い、諸所で写真を撮る依頼されたりほら貝の音色をせがまれたりと大忙しでした。昼過ぎには山頂に到達しましたが、到達時には思わず「万歳」の声が出ました。多少の時間差はありましたが、登頂した全員で記念写真を撮り「般若心経」を唱えて神に感謝しました。当然、80歳で登頂した記念に「高齢者登山名簿」に名を書き込み、記念にお神酒を頂き「国鎮末広」と書かれた扇を頂戴しました。午後2時15分に山頂を発ち、下山専用のルートを辿り出発点の五合目を目指しました。下界に降りれば待っているのは温泉と宴会です。翌日は「吉田の火祭り」が予定されており、富士の閉山を確認しての終了となりました。



会員レポートその2 「富士山麓トレイル整備活動」

10代から70代の家族でトレイル整備に参加

会員 松信 智慧

富士山クラブ会員の私（祖母）、義娘、小学5年生の孫とその友達、デコボコカルテット4人組で、2023年11月12日に実施された、富士山麓トレイル（登山道）整備活動に横浜から参加しました。

前日、鳴沢村の温泉に浸って元気一杯です。お天気に恵まれましたが、残念ながら富士山は雲の中、整備活動のリーダーを務める地元（身延町）のシルバーボランティアの号令の下、本栖湖畔から落ち葉で紅葉した山道を、作業の道具の一つ、熊手を片手に登っていくと、本日の登山道補修現場に到着しました。私は、鎌倉逗子の近くに住んでいるので、近辺の山をよく歩きますが、「確かに道が荒れて歩きにくいところも多々ある」と思い返しながら作業に



加わりました。と言っても、私は熊手で落ち葉を掃いていただけだけど…（笑）。

今日の経験を孫たちが大人になったときに、どこかの山道を歩きながら思い出してくれたら良いなあと思いました。

富士山の日フォーラム 2024

富士山ツーリズムの楽しみ方

～参加者募集！～



主催：富士山クラブ 協賛：富士急行株式会社

開催日時：2024年2月23日（金・祝） 13時～14時30分

会場：山梨県立富士山世界遺産センター（山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1）

詳細：https://www.fujisan.or.jp/Event/2024/02/2024_223.html

富士山を知り尽くしたスペシャリスト3名が、富士山の知られざる魅力についてお話しします！皆様のご参加をお待ちしています！



岩崎仁さん
富士山ネイチャーツアーズ
代表



中島紫穂さん
元富士山レンジャー
南アルプスの山小屋勤務



トマス・ジョーンズさん
立命館アジア太平洋大学
サステイナビリティ観光学部教授

第8回 富士山大賞授賞作品

当クラブも実行委員を務める富士山大賞の第8回授賞式が2月4日、東京都港区の元赤坂の明示記念館で開催。富士山が世界文化遺産に登録されて10周年という記念の年とあって、富士山をテーマにした短歌は、日本だけでなく、米国や欧州、インドなど世界各国からもたくさんの応募があり、審査の結果、大賞と準大賞には、次の作品が選ばれました。

（主催：富士山大賞実行委員会）

【大賞】 夕暮れの 滲んだ空に 富士がいて そうだね きっと なんとかなるさ
東京都 細田泰司

【準大賞】 富士山に 見守られての 103歳 枝先ゆらし 春の雪ふる
山梨県 柴田奉子

青空の 中心点は 今わたし 山頂岩に すっくと立てり
長崎県 縁 （敬称略）

事務局 からの お知らせ

【ようこそ新会員さん！】

川口卓男、金子儀則、吉成正人、高橋和彦、山田裕康、野口邦彦、
山本恭代、赤池弘源、阿部一郎、渡邊保志
株式会社ジェーシービー (敬称略)

【2023年 ご寄附ありがとうございます！】

アプライド マテリアルズ ジャパン(株)、山本健一、(有)T.M.WORKS、みはらし亭、(有)富士山みはらし、プレステージ(株)富士五湖支店、OneOneOne事務局、河村日佐男、お食事処大豊、渡辺恵子、ハイランドリゾート(株)、認定NPO法人さわやか青少年センター、(株)ツチヤ、マックスバリュ富士宮万野原店、イオン甲府昭和店、アビーム健康保険組合、鈴木義和、平澤美鈴、早川友梨、(一財)セブン-イレブン記念財団、林製紙(株)、中田まゆみ、溝口麻里子、川島攻、茂岡順子、五藤亜紀子、石井芳子、轟原修、上原繫子、高木満寿美、福本正勝、山口由季、松枝秀子、山本健一、土井百合、本鍋田洋一、神山直規、日本コカ・コーラ(株)、宮崎安代、山田裕康、鈴木敬吾、(株)丸紅フットウェア (FILA)、JAMMINアイテム購入者一同、上田幸恵、富士山三島東急ホテル、小木曾あけみ、渡邊靖之、岡昭彦、ニチレイマグネット(株)、ミウラコミチ、Tシャツ2枚販売分 (敬称略)

2023キャンペーンアイテム購入有難うございました！

♥FILA (丸紅フットウェア)

GREEN-phiriaグリーン (=自然) フィリア (=親愛) の意味をもつ新しい言葉とともに、SDGsの目標12 (つくる責任、つかう責任) に向け、ソールにリサイクル素材を採用した環境配慮型のシューズは、1足の販売につき約100円が富士山クラブの行う富士山の自然保護活動へのご寄附支援となっています！

♥JAMMIN (京都発のチャリティー専門ファッションブランド)

富士山のごみ問題や外来種の駆除、森づくりに25年にわたって取り組んできた私たち富士山クラブへのチャリティーとして1週間限定の富士山クラブアイテムを販売！1点につき100～700円のチャリティーをご寄附いただきました！

♥い・ろ・は・す (日本コカ・コーラ)

「い・ろ・は・す」を買って1回参加するごとに1円のご寄附が送られる「サステイナ ビルディングキャンペーン」が開催され、森・山・川・海を守る活動をしている団体の1つとして、富士山クラブへご寄附いただきました！



毎日新聞は、認定NPO法人富士山クラブと協力し、2000年から山ろくの不法投棄ごみの清掃などさまざまな環境活動に取り組んでいます。

世界共通語「MOTTAINAI」 きっかけは毎日新聞でした



持続可能な開発目標 (SDGs) への取り組み



環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したワナギリ・マータイさんは生涯にわたって人々の生活向上と女性の権利拡大、教育と福祉の拡充に貢献されました。MOTTAINAIキャンペーンは、その遺志を受け継ぎ、ケニア山麓で382万本を植林。育樹活動等を通じて住民の生活の質の改善に努めています。



キャンペーンでは、国内各地で4R(リデュース、リユース、リサイクル、リスペクト)の大切さを呼びかけ、子どもたちだけで売り買いするキッズフリーマーケットや国内での植林活動等を通じて森林や海岸の保全、緑豊かなまちづくりを実践してきました。



キャンペーンに賛同するブラジルの環境活動家のマリナ・シルバさんは、環境大臣時代、地球第一の肺と言われるアマゾンの森林伐採率を5%削減させました。毎日新聞とのインタビューでシルバさんは「もったいない、という言葉は自然や資源、次の世代をリスペクトするという意味がある」と語り、世界中で新たな消費や文明のあり方を創造すべきだと提言しています。



認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

本部・富士山クラブもりの学校 〒401-0332 山梨県南都留郡富士河口湖町西湖2870 TEL:0555-20-4600
静岡事務所 〒418-0111 静岡県富士宮市山宮3645-116 TEL & FAX :0544-58-9120

◇会費・寄附金の振込先

■郵便振替

口座名：富士山クラブ
記号番号：00870-8-13047

■銀行振込：ゆうちょ銀行 二三八店

口座名：認定特定非営利活動法人富士山クラブ
口座番号：普通3683240